

令和7年度

秋田県学習状況調査

能代市分析結果

I 実施の状況

II 教科に関する調査結果

1 概要について

2 各学年の結果について

(1) 小学校4年生平均通過率

(2) 小学校5年生平均通過率

(3) 中学校1年生平均通過率

(4) 中学校2年生平均通過率

(5) まとめ

III 質問紙調査結果



能代市教育委員会

I 実施の状況

1 実施趣旨

○学習指導要領の内容の定着度等を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査、本調査及び高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資する。

2 実施学年

小学校4・5年生、中学校1・2年生

3 調査内容

- ①教科に関する調査
- ②質問紙調査



4 実施教科

小学校4年生 : 国語、算数、理科
小学校5年生 : 国語、社会、算数、理科
中学校1・2年生 : 国語、社会、数学、理科、英語

5 実施期日

小学校: 令和7年12月3日(水)
中学校: 令和7年12月4日(木)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

対象学年	学校数(実施率)	実施児童生徒数
小学校4年生	7校(100%)	232人
小学校5年生	7校(100%)	227人
中学校1年生	6校(100%)	264人
中学校2年生	6校(100%)	255人

Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要について

＜小学校＞ たいへん良好な状況です

(1) 県平均を上回った教科

4年生 国語、算数、理科

5年生 国語、社会、算数、理科

※各学年で実施した全ての教科において、県平均を上回っています。

☆県平均を5ポイント以上、上回った教科

4年生 国語、算数、理科

5年生 算数、理科

(2) 昨年度との比較から

小4では、国語と算数で、小5では国語、算数、理科で、昨年度より伸びています。また、全ての教科で県平均を上回っており、たいへん良好な状況と言えます。

＜中学校＞ 教科によっては課題が見られます

(1) 県平均を上回った教科

1年生 国語、社会、理科、英語

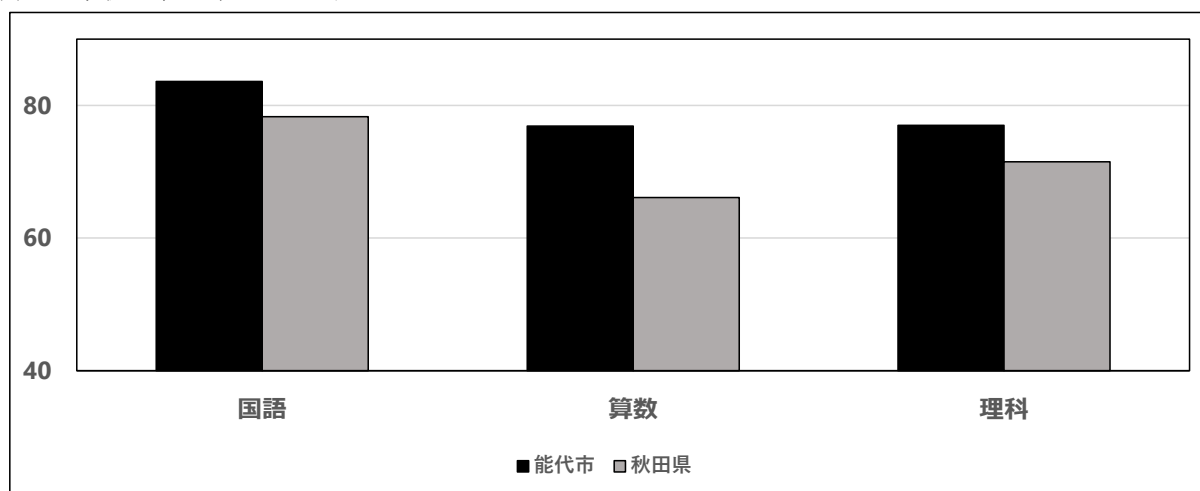
2年生 国語、社会、数学、英語

(2) 昨年度との比較から

県平均を下回る教科があります。中1では数学、中2では理科が県平均を下回っており、課題を明らかにして、授業改善を図る必要があります。

2 各学年の結果について

(1) 小学校4年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。算数と理科は5ポイント以上、上回っています。

〈国語〉 12問中、11問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(11) 登場人物の心情の変化を捉える

(12) 自分の好きな音と、その音が好きな理由を書く

★県平均を下回った問題

(2) 漢字を読む(おそわる)

〈算数〉 18問中、全ての問題で上回っています。

☆県平均を15ポイント以上、上回った問題(10ポイント以上上回った問題は13問)

(6) 分数の意味と表し方

(10) 円の作図

〈理科〉 12問中、10問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

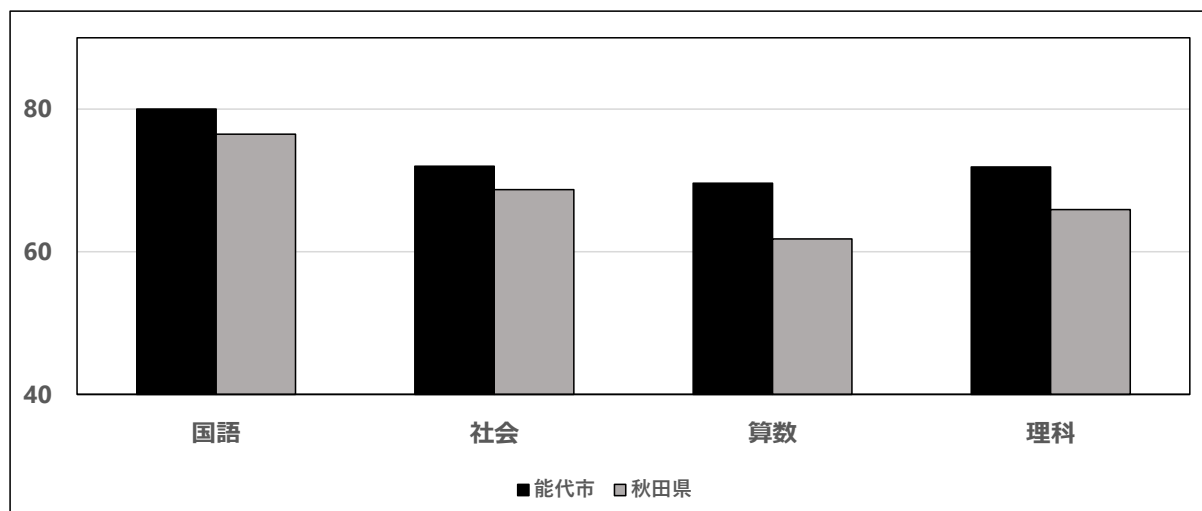
(4) 植物の育ち方

★県平均を下回った問題

(9) 人の体の動きと筋肉

(11) 温度計の読み方

(2) 小学校5年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。

〈国語〉 16問中、13問で上回っています。

★県平均を下回った問題

- (2) 漢字を読む(つげる)
- (12) 文章全体の構成を捉える
- (15) 必要な情報を見付け、論の進め方を考える

〈社会〉 18問中、14問で上回っています。

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

- (11) 廃棄物を処理する事業

〈算数〉 18問中、すべての問題で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

- (9) 四角形の4つの角の大きさの和
- (12) 除数と商の大きさの関係
- (14) 伴って変わる数量の関係(20ポイント以上、上回っています！)
- (18) 平行四辺形のかき方

〈理科〉 18問中、17問で上回っています。

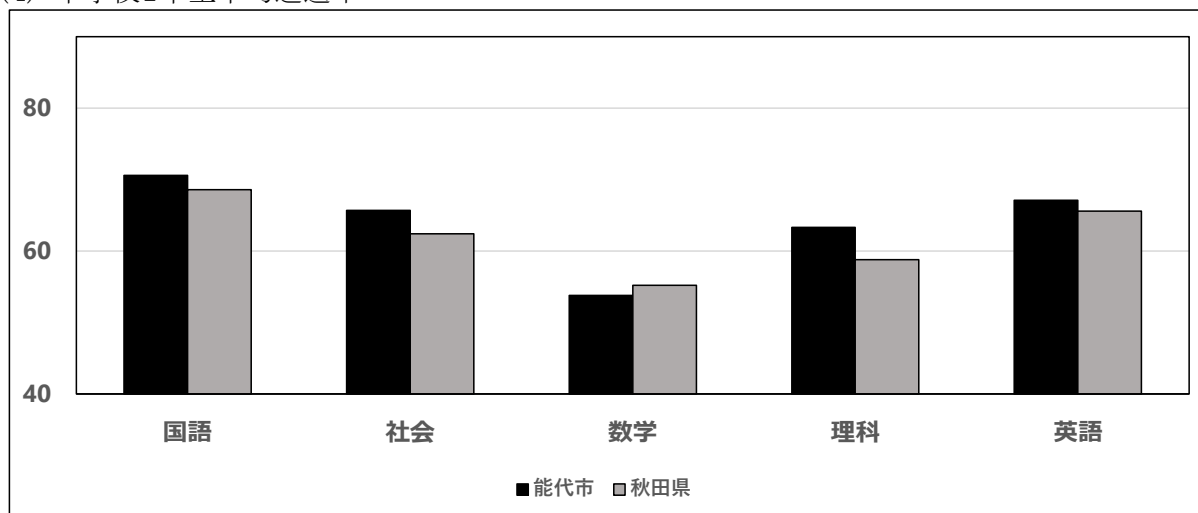
☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

- (10) 雲量と天気

★県平均を下回った問題

- (11) 天気の変化の規則性

(4) 中学校1年生平均通過率



教科によっては課題が見られます

○数学以外の4教科で県平均を上回っています。

＜国語＞ 18問中、14問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

- (12) 話の内容を捉える
- (13) 叙述を基に要旨を把握する
- (17) 必要な情報に着目し、文章の内容を捉える

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

- (3) 漢字を書く(推進)
- (4) 漢字を書く(除いて)

＜社会＞ 18問中、13問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

- (18) 公地・公民の原則

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

- (15) 大和政権による統一の様子

＜数学＞ 18問中、8問で上回っています。

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

- (2) 素因数分解
- (3) 一次式の計算
- (18) 文字式の利用

＜理科＞ 18問中、16問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

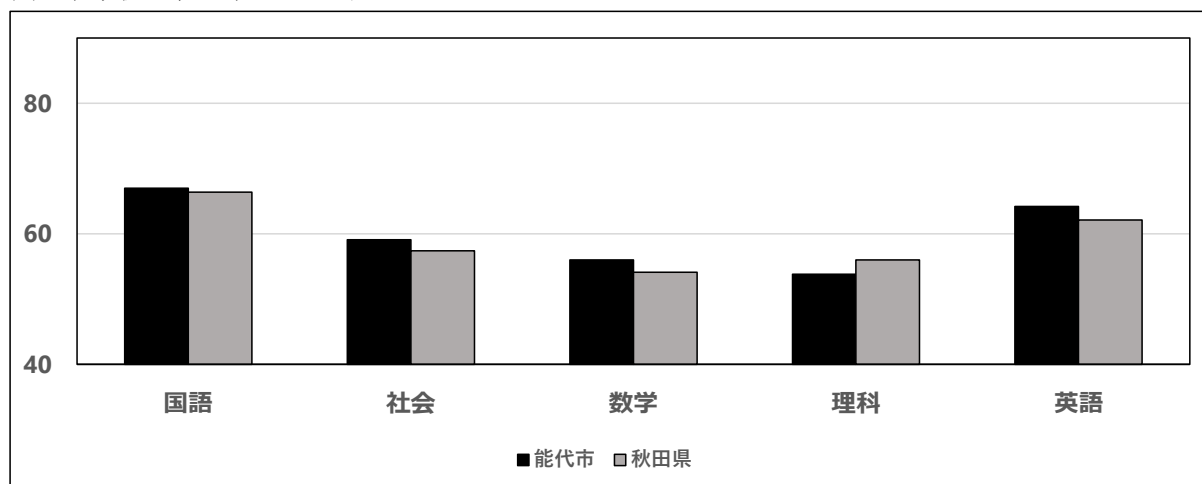
- (1) だ液の働きによるデンプンの変化
- (15) シダ植物とコケ植物における体のつくりの相違点

＜英語＞ 18問中、13問で上回っています。

☆県平均を5ポイント以上、上回った問題

- (5) 質問の内容(放課後にすること)に対する適切な応答
- (16) メッセージの内容を踏まえた英文の作成

(5) 中学校2年生平均通過率



教科によっては課題が見られます

○理科以外の4教科で県平均を上回っています。

- 〈国語〉 18問中、10問で上回っています。
 ☆県平均を10ポイント以上、上回った問題
 (1) 論理の展開に着目して聞き取る
 ★県平均を5ポイント以上、下回った問題
 (8) 対義語の理解
- 〈社会〉 18問中、12問で上回っています。
 ☆県平均を5ポイント以上、上回った問題
 (1) 大陸や海洋の名称と位置
 (2) 対蹠点の位置
 (3) 温帯に暮らす人々の生活の様子
 ★県平均を5ポイント以上、下回った問題
 (18) 豊臣秀吉の政策による社会の変化
- 〈数学〉 18問中、12問で上回っています。
 ☆県平均を5ポイント以上、上回った問題
 (5) 反比例の式
 (8) データの範囲
 (17) 一次関数の利用
 (18) 文字を用いた説明
 ★県平均を5ポイント以上、下回った問題
 (7) 円の接線の作図
- 〈理科〉 18問中、4問で上回っています。
 ★県平均を10ポイント以上、下回った問題
 (3) 震央
 (6) 乱反射
- 〈英語〉 18問中、14問で上回っています。
 ☆県平均を5ポイント以上、上回った問題
 (5) 会話の要点(訪れる場所)の聞き取り
 (6) 会話の要点(理由)の聞き取り
 (9) イベントについての会話文の読み取り

(6) まとめ

★県平均を5ポイント以上下回った問題

○国語	中1年	(3)	漢字を書く(推進)
		(4)	漢字を書く(除いて)
	中2年	(8)	対義語の理解
○社会	小5年	(11)	廃棄物を処理する事業
	中1年	(15)	大和政権による統一の様子
	中2年	(18)	豊臣秀吉の政権による社会の変化
○算数・数学	中1年	(2)	素因数分解
		(3)	一次式の計算
		(18)	文字式の利用
	中2年	(7)	円の接線の作図
○理科	中2年	(3)	震央
		(6)	乱反射
		(18)	肺胞の役割



☆課題と対策に向けて☆

令和7年度、県平均を5ポイント以上、下回った問題は13問で、昨年度よりも6問減少しました。

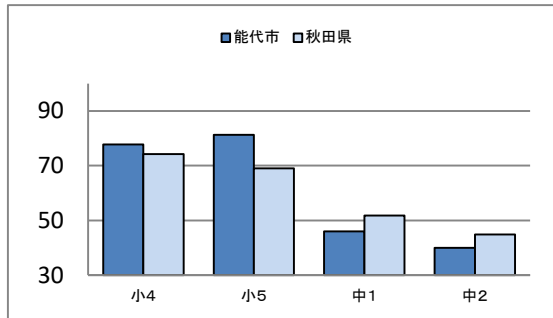
今年度の調査では、国語の漢字を書く問題、中学校2年生の理科の一部の領域で、課題が見られました。また、小学校5年生の社会「(11)廃棄物が処理する事業」については、秋田県教育委員会が示す「学習状況における課題等の改善に資する問題」に分類されていますが、県平均を大きく下回っています。

各学校においても、児童生徒の課題を明らかにして、今年度のうちに回復に向けた指導を行い、確実な理解に努めてまいります。

Ⅲ－１ 質問紙調査結果(学習全般について)

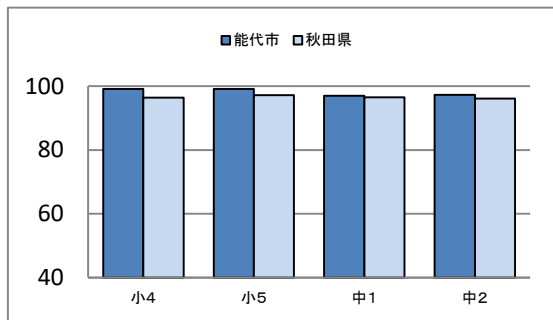
※グラフは、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合を示しています。

① 勉強が好きだ



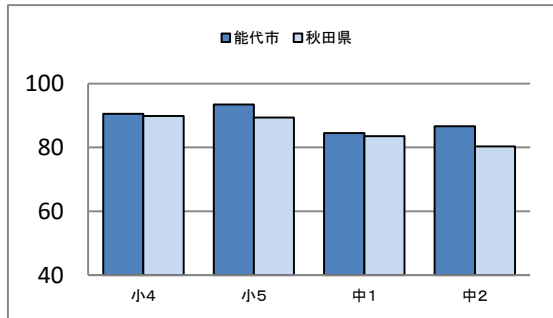
小学校5年生では、県平均を上回っています。しかし、中学生になると40%台まで数値が落ち込んでいます。学習内容の高度化により、学習への負担感が影響している可能性が考えられます。引き続き、学習の見通しや必要感を大切にした指導の充実を図ってまいります。

② 勉強は大切だ



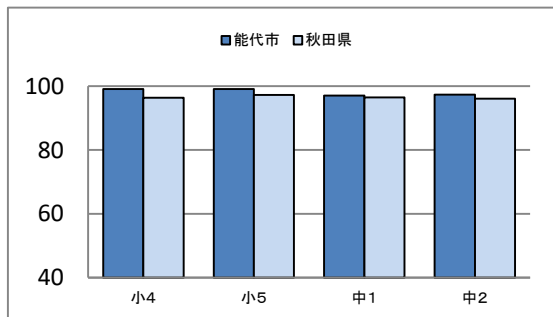
全ての学年で95%以上となっており、どの学年も100%に近い数値です。学年・校種に関わらず、多くの児童生徒が学習の意義を理解し、学習に取り組んでいることがうかがえます。こうした意識を大切にながら「わかった」「できた」を実感できる授業づくりの充実に取り組んでまいります。

③ 学校の勉強がよくわかる



全ての学年で、県平均を上回っており、小学校では90%を超える数値となっています。このことから、児童生徒が学習内容を理解し、納得感をもちながら授業に臨んでいることがうかがえます。今後も児童生徒一人一人の理解の状況を捉えながら、学習内容が確実に身に付く授業づくりの充実に取り組んでまいります。

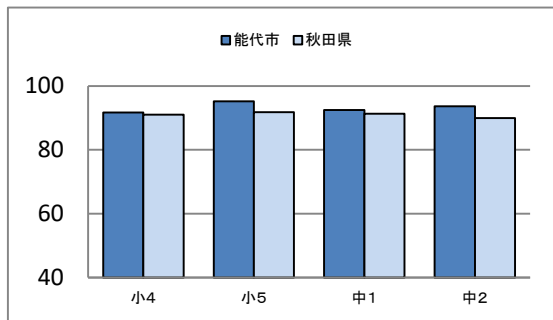
④ ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい



全ての学年で県平均を上回っており90%を超える高い水準となっています。多くの児童生徒が、学習を将来や実生活と結び付けて学習していることがうかがえます。学習内容と生活、社会とのつながりを意識し、学ぶ意義を実感できる学習の推進を図ってまいります。

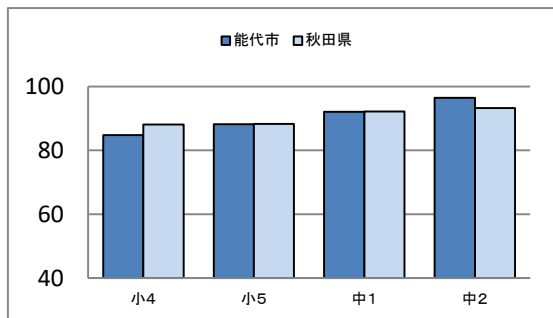
Ⅲ－２ 質問紙調査結果(学校生活について)

① 学校が楽しい



90%を超える高い水準となっています。昨年度とほぼ同程度の数値となっており、「学校が楽しい」と児童生徒が感じる背景には、各学校の魅力的な授業、安心して生活できる学級の雰囲気等が挙げられます。今後も授業づくりや学級経営の充実を図るとともに、温かな学校づくりに取り組んでまいります。

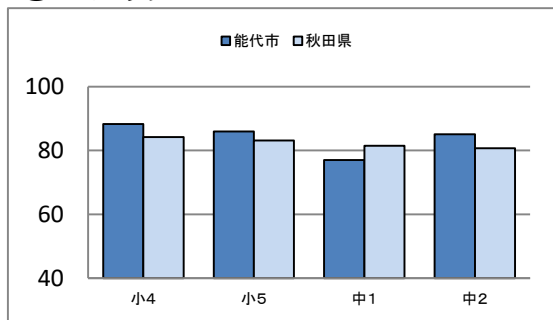
② 学校のきまりを守っている



どの学年も80%を超えており、高い水準を保っていますが、昨年度の数値と比較すると小学校5年生が5ポイント程度、低下しています。また、学年が進むにつれて数値の高まりがあります。このことから、児童生徒が学校生活におけるきまりの意義を理解し、発達段階に応じて規範意識を身に付けている様子がうかがえます。

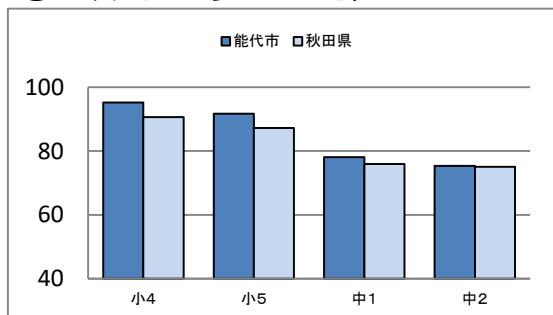
Ⅲ－３ 質問紙調査結果(ふるさと・キャリア教育について)

① 自分にはよいところがあると思う



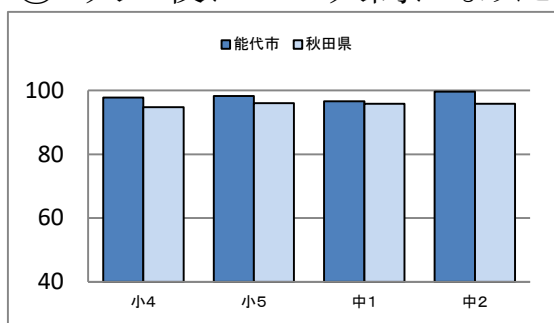
全ての学年で、80%前後と高い水準を保っていますが、昨年度と同様に、中学校1年生で数値が低下しています。このことから環境の変化が大きい中学校進学時期において自己肯定感が揺らぎやすい状況にある生徒が一定数いることがうかがえます。小学校から中学校への円滑な接続を意識し、一人一人のよさを認める関わりの充実を図ってまいります。

② 将来の夢や目標をもっている



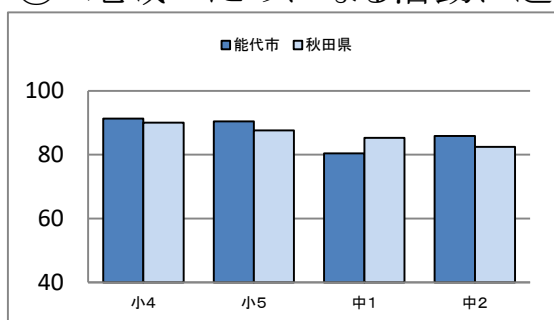
昨年度と同様に、中学校段階で70%台と低下しています。このことから、将来像が具体化しにくくなる中学校進学時期において、目標をもつことに難しさを感じている生徒が一定数いることがうかがえます。教育活動全体を通して、キャリア教育の視点を持ち、自分の将来について考える機会の充実を図ってまいります。

③ 人の役に立つ人間になりたいと思う



昨年度と同様に、全ての学年で95%を超える高い水準となっています。多くの児童生徒が、他者や社会との関わりの中で自分の役割を意識し、社会に貢献したいという思いをもって学校生活を送っていることがうかがえます。学校生活や地域との関わりを通して、自分の行動が誰かの役に立っていることを実感できる学びの充実を図ってまいります。

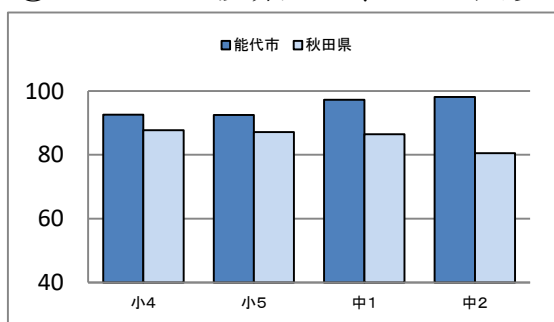
④ 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う



昨年度と同様に、今年度も全ての学年で80%を超える高い水準となっております。各校で行っている地域との関わりを大切に学習活動や体験的な取組が継続して行われてきた成果として表れています。今後も学校・家庭・地域が連携しながら児童生徒が地域の一員としての役割を実感できる学びの充実を図ってまいります。

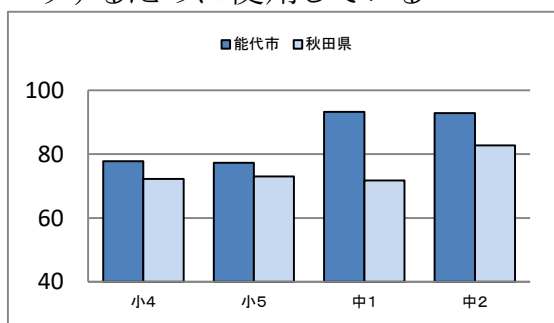
Ⅲ－4 質問紙調査結果(授業について)

① ふだんの授業では、週に1回以上ICT機器を使用している



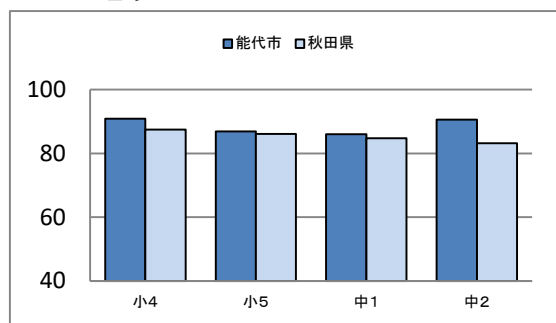
すべての学年で県平均を大きく上回っています。この結果から、各校においてICTを日常的に授業の中で活用し、タブレット等を使用する段階から活用する段階への取組が進んでいることがうかがえます。今後も、ICTを生かしながら、児童生徒が主体的に考え、表現し、学びを深める授業づくりを推進してまいります。

② 学校で、週に1回以上ICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している



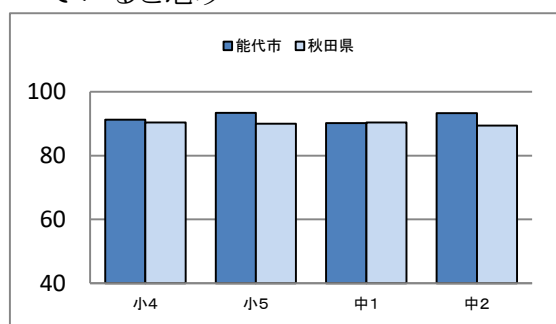
各校においてICTを単に使用するだけでなく、対話や探究の場面で効果的に活用する取組が定着しつつあり「デジタルとアナログのベストミックス」を意識した授業づくりが進められている様子がうかがえます。タブレットと紙面のよさを生かしながら、主体的・対話的な学習を通して、児童生徒が考えを深める授業の充実を図ってまいります。

③ ふだんの授業では、授業の目標(めあて・ねらい)を立てて取り組んでいると思う



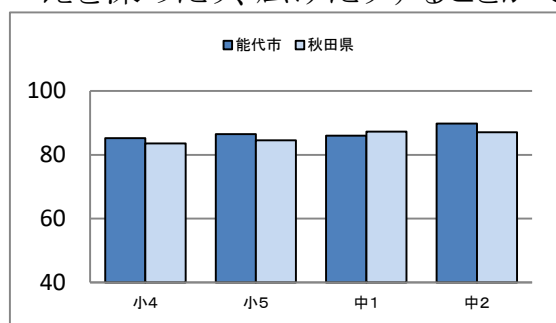
全ての学年が県平均を上回っており、数値についても85%を超えています。授業の中で見通しをもって取り組む姿勢が、児童生徒に定着しつつある様子がうかがえます。また、各校において、目標を明確にした授業づくりが継続して行われてきた成果の一つと考えられます。今後も児童生徒が主体的に学習に取り組む力の育成を図ってまいります。

④ ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う



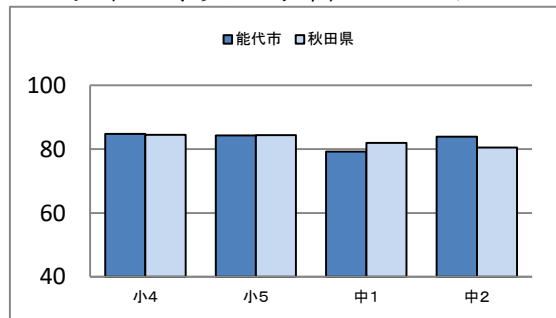
学年によって、県平均を若干下回っている数値もありますが、全ての学年で90%以上と高い水準を保っています。このことから、授業の中で、「個の時間」を大切に、自分の考えをもち、それを伝え合いながら学びを深める活動が各校において充実していることがうかがえます。

⑤ ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



すべての学年で85%となっており、昨年度と同様に高い水準を保っています。このことからICTを活用し、考えを可視化・共有する取組や、教師が児童生徒の考えをつなぎ、整理するコーディネート工夫が効果を上げていると考えられます。

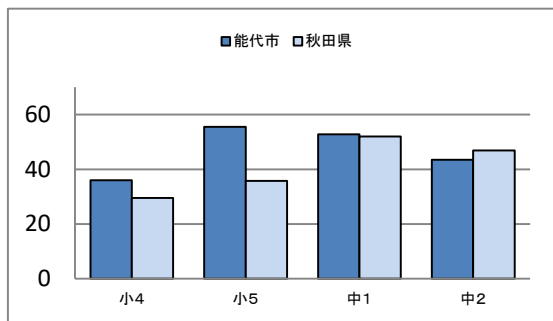
⑥ 授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う



全体として、昨年度より若干低下していますが、全ての学年で80%前後と高い数値になっています。この結果から、見通しをもって授業に取り組み、視点をもって振り返りを行っている様子がうかがえます。今後も学習の振り返りを大切にしながら、授業づくりの充実に取り組んでまいります。

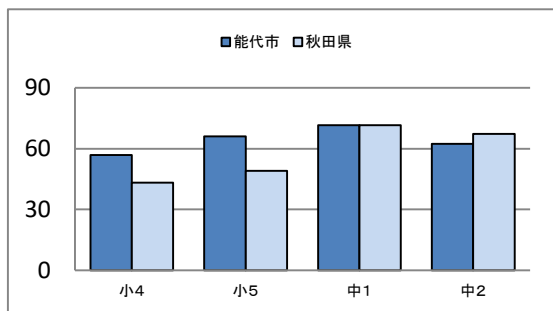
Ⅲ－５ 質問紙調査結果(家庭学習について)

① 学校がある日(平日)、授業以外で1時間以上勉強する



小学校5年生で県平均を大きく上回っている一方で中学校2年生で県平均を3ポイント程度下回っています。この結果はR5の調査結果とも共通しており、その背景に、学習内容の高度化や部活動の本格化による生活リズムの変化が考えられます。家庭での課題が負担にならないように考慮しながら、発達段階に応じた学習習慣の形成を意識した支援を行っていきます。

② 学校がない日(休日)、1時間以上勉強する



小学校段階において県平均を大きく上回っています。一方、中学校では、1年生は県平均と同程度であるものの、2年生では5ポイント程度下回っています。小学校で培われた学習習慣を中学校へと円滑につなぎ、生徒の生活実態を配慮しながら、主体的に家庭学習に取り組める環境づくりを進めてまいります。